

目標（3）

人と学びの輪を広げ、  
まちのチカラを育みます



▲タカハマ！まるごと宝箱  
(聞き書き冊子「おひろめ会」)

I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	地域の中で、「教わりたい人」と「教える人」（知恵・知識・特技などを持った人）とがつながるなど、人・学びの接点を豊かにし、「まなび」を全世代へ広げ、「人づくり」から「まちづくり」へと動きをつなげていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 感動との出会いにより、子どもだけでなく、大人もともに成長し、次の世代へ夢とロマンを語り継いでいます。</li> <li>◇ 個人が学んだ成果を、まちづくりに積極的に活かしています。</li> <li>◇ 「人づくり」から「まちづくり」への動きにつながっていくことで、高浜市に愛着や誇りを持つ市民が増えています。</li> <li>◇ スポーツ・レクリエーションを通じて市民が交流し、市民の連帯感が向上しています。</li> </ul>

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 地域の人たちがさまざまな先生役となり、地域の人たち（特に、子ども）の成長に関わる機会を増やします。	①テーマごとに、調査した市民の方を交えて「タカハマ！まるごと宝箱」学び合い・語り合いの会を月1回のペースで開催し、資料収集や魅力・自慢の発信、それらに関わる人材の掘り起こしを行った。	H27.4～ H28.3
	②名古屋市立大学と連携して三州瓦にまつわる聞き取り調査を行い、聞き書き冊子「たかはまとかわら」を編集・発行、冊子の「おひろめ会」を開催した。	H27.6～ H28.3
(2) 地域ぐるみで未来に羽ばたく人材を育て、まちづくりの活力を高めます。	①中高生スタッフを中心に、市内各所で「タカハマ物語2」の撮影を行った。特に「鬼コン Vol.5」では、多くの方にエキストラとして映画撮影に参加していただいた。	H27.5～11
	②鬼みちまつり、大家族たかはま会議、市民駅伝、シティマラソンなどに参加し、「タカハマ物語2」制作活動を紹介するとともにイベントを盛り上げた。	H27.10～ H28.1
	③中高生スタッフや市民スタッフとともに「タカハマ物語2 心のツバサ」上映会を開催した。	H28.2
(3) 地域の良さ（歴史、文化、伝統など）を学び、地域の魅力の掘り起こし・情報発信を進めます。	①（1）に同じ	
	②市誌編さんに向けての準備を行った。（他自治体の事例調査など）	H27.10～ H28.3
(4) 誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。	①（仮称）高浜緑地の整備に向け、スポーツ団体や渡し場かもめ会等から利用に対する意見を聴き、詳細設計を完成させた。	H27.4～ H28.3
	②たかはまスポーツクラブ・体育協会・ボートクラブ・スポーツ推進委員と協働で事業を推進した。（ラジオ体操指導者講習会、漕艇センター利用者講習会、高浜市民レガッタ、愛知駅伝選考会、市民体育大会、高浜市民駅伝、高浜シティマラソン など）	H27.4～ H28.3
参画・協働・ 情報共有の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆「タカハマ！まるごと宝箱」学び合い・語り合いの会では、発表者からの一方的な発信だけではなく、参加者同士の語り合いができる雰囲気づくりを心がけた。</li> <li>☆（仮称）高浜緑地整備に係るワークショップを実施し、利用者視点での意見を、町内会やスポーツ関係団体等の参加者や若者（40歳まで）から伺った。</li> </ul>	

### Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

#### 1. 市民意識調査結果

【設問】学び（生涯学習やスポーツなど）を通して、人と人とがつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う

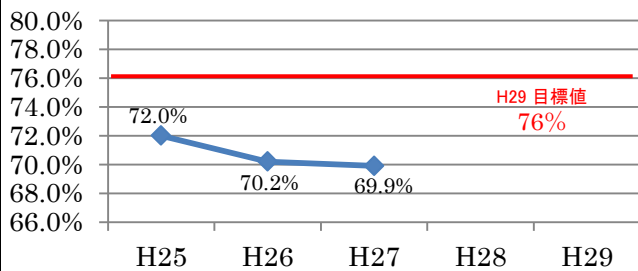
現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	動向
58.9%	58.2%	56.1%			×

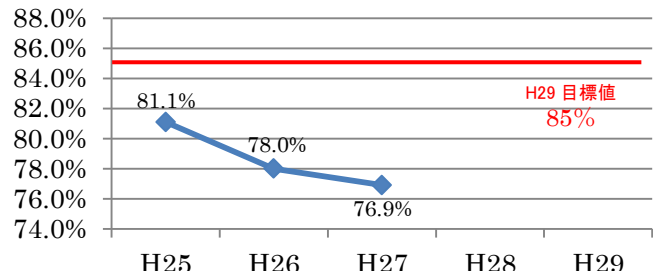
	□ そう思う □ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない □ 無回答				今回(H27)	参考(H26)	参考(H25)
	そう思う+どちらかといえばそう思う(%)				56.1	58.2	58.9
全体 922	8.5	47.6	34.4	7.8	1.7		
性別							
男性 320	8.4	43.4	36.3	10.3	1.6	51.8	47.1
女性 594	8.4	49.8	33.7	6.4	1.7	58.2	65.3
年齢別							
10歳代 23	26.1	56.5	17.4	3.6		82.6	88.9
20歳代 83	8.4	44.6	43.4			53.0	53.0
30歳代 148	6.8	41.9	43.9	6.8	0.7	48.7	57.7
40歳代 165	9.1	57.0	27.9	6.1		66.1	59.9
50歳代 147	2.7	42.2	40.8	12.9	1.4	44.9	52.6
60歳代 157	6.4	43.3	36.9	10.8	2.5	49.7	50.3
70歳以上 193	13.5	52.3	23.3	6.2	4.7	65.8	70.8

#### 2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

##### 1) 高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合



##### 2) 将来の夢を持っている子どもの割合



#### 3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

- 「市民意識調査」は、全体では56.1%で、前年度比2.1ポイントの減、策定時比2.8ポイントの減となっている。「市民意識調査報告書」によると、男性（51.8%）に比べて女性（58.2%）の方が意識が高い結果となっている。また年代別で見ると、全体と比べて40代（66.1%）と70代以上（65.8%）では約10ポイント高くなっている一方、50代（44.9%）では約10ポイント低くなっている。
- 指標1）「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」は、全体では69.9%で、前年度比0.3ポイントの減、策定時比2.1ポイントの減となっている。「報告書」によると、70代以上（84.9%）では全体と比べて15ポイント高くなっている一方、30代（54.8%）では全体と比べて約15ポイント低くなっている。例年30～40代は全体より低い傾向にあり、仕事が多忙でまちのことを省みる余裕がない、居住年数の長短の影響などがあると思われる。しかし、高取小学校区でおやじの会設立の機運が高まっているなど、子どもの成長応援に関わる若い世代の新たな動きも見られている。人とつながりや、学習・スポーツ等の活動を通して高浜市の良さを発見できるよう、また、様々な角度から高浜市の良さが伝わるような工夫が大切である。
- 「市民意識調査」及び指標1）の実績値低下の要因の一つとして、生涯学習施設を中心に、公共施設の複合化・集約化の動きが具体的になっており、学習・文化・スポーツ活動に力を入れていないという誤解を与えていることが考えられる。将来を見据えて取り組んでいることを丁寧に伝え、施設利用者等の想いに寄り添いながら複合化・集約化の検討を進めていくことが重要である。
- 指標2）「将来の夢を持っている子どもの割合」は、全体では76.9%で、前年度比1.1ポイントの減、策定時比4.2ポイントの減となっている。「報告書」によると、男子（74.4%）の方が女子（79.8%）に比べて数値が低い傾向にある。また、学年が上がるにつれて数値が減少しており、特に中1から中2に進級後の減少幅が19ポイントと大きくなっている（昨年の中1：76.7%→今年の中2：57.7%）。1年間の中学生生活を経て自分の適性や社会の現実を知ようになり、これまで抱いていた夢との不一致を感じる子どもが増えていることが考えられる。将来の夢を持つことは、目標に向かって自ら学び、努力・挑戦していくという意欲を高め、成長に資するものである。生涯学習分野だけでなく、学校教育分野とも関連してくるが、各種学習・文化・スポーツ活動などを通して、まなびのエネルギーとなる好奇心や感動、楽しい成功体験が得られるようにしていくことが大切である。



#### IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p><b>（1）まちのチカラの源となる「まちへの愛着・誇り」を高める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高浜市には歴史・伝統・文化・産業・自然など、先人たちが長い年月をかけて培い、継承してきた個性豊かな魅力・自慢がたくさんあるが、知っているようで、意外と知られていない、あるいは眠っている地域資源もたくさんある。</li> <li>市民が様々な魅力・自慢を知り、その過程で様々な人が関わり合うことで、「もっと知りたい」といった好奇心や、「住んでいるまちをより良いものにしたい」といったまちづくりの原動力が生まれてくる。先人たちのあゆみやまちへの想いを知り、それらを活かしていくとともに、市の財産として将来へと伝えていくことが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>約 40 年ぶりとなる「市誌編さん」に着手する。前回の編さん以降空白となっている、市制施行後約 50 年間のあゆみを中心にまとめ、「聞き書き」の手法などにより、<u>市民の記憶を記録にする作業を進める</u>。また、<u>学校や地域での活用を意識した、親しみやすい内容としていく</u>。</li> <li>編さんの過程では、浅い関わりから深い関わりまでまちへの想いを高めていくための<u>多様な市民参加の手法を取り入れる</u>。 （例）「聞き書き」への参加（聞き手・書き手） 資料の掘り起こし、調査、原稿執筆 100 年先に伝えたい「たかはまのたからもの」募集とかかわら美術館での展示紹介</li> <li>編さんの経過や成果、まちの魅力・自慢に関する情報を、広報やフェイスブック、美術館の展示など様々な手法を用いて積極的に発信する。</li> <li>「タカハマ！まるごと宝箱」を今後も月 1 回のペースで開催し、幅広い世代の市民の「知りたい」「伝えたい」の想いを活かしながら<u>様々なテーマを取り上げ、学び合い・語り合いを行う</u>。<u>語り合いの記録は読みやすい形にまとめ、発信していく</u>。</li> </ul>	<p>編さん委員会の立ち上げ H28.10 ～ H32 完成予定</p> <p>H28.8～</p> <p>通年</p> <p>H28.4～ H29.3</p>
<p><b>（2）（仮称）高浜緑地（特にグラウンド）の早期供用開始</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>狭隘な市域で、野球やサッカーなど競技人口に比べてグラウンドが少なく、スポーツの振興に支障をきたしている。高浜緑地のグラウンド部分の早期供用開始が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（仮称）高浜緑地は、県の予算に進捗が委ねられている。緑地全体の早期供用開始が望ましいが、愛知県衣浦港務所との協議を通して、グラウンド部分の早期完成をお願いしていく。</li> <li>スポーツ団体や渡し場かもめ会、吉浜まちづくり協議会、芳川町町内会と、緑地の管理運営に関するワークショップを行い、<u>利用者・地元の意向を反映させていく</u>。</li> </ul>	<p>H28.4～ H29.3</p> <p>H28.4～ H29.3</p>
<p><b>（3）生涯学習・スポーツ施設のあり方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「公共施設総合管理計画」に基づき、大規模改修の時期等に合わせて総量圧縮・機能移転を行うなど、将来を見据えた取組みを進め、限られた財源の中で、いかに効果的な運営を行っていくかを考えていく必要がある。</li> <li>施設の再編によって、これまで取り組んできた活動ができなくなることが極力ないように、利用者の想いに寄り添いながら、対応していくことが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設の総量圧縮・機能移転は、市の将来を見据えて取り組んでいることを丁寧に伝え、施設利用者等の想いに寄り添いながら、複合化・集約化の検討を進めていく。</li> <li>高浜小学校へ機能を移転する施設のうち、今年 11 月 15 日をもって閉館する中央公民館については、施設の定期利用者と閉館後の活動について相談に応じるなど、丁寧に対応していく。また、大山公民館など他の施設についても、無償譲渡や廃止に向けて、<u>館長や利用者、施設管理者等と丁寧な協議を重ねていく</u>。</li> <li>今後は、<u>図書館や勤労青少年ホームの見直し</u>が具体化してくる。市としての生涯学習や公共施設に対する方針をお示しし、<u>限られた財源の中で、どのようなまなびの場が市民や地域にとって大切なのかを意見交換しながら、施設のあり方をとともに考えていく</u>。利用者等に対して早めに情報を発信していく。</li> </ul>	<p>通年</p> <p>中央公民館 H28.4～11</p> <p>大山公民館 他 H28.8～</p> <p>H28.8～</p>
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆市誌編さんの過程では、浅い関わりから深い関わりまでまちへの想いを高めていくための多様な市民参加の手法を取り入れる。編さんの経過や成果に関する情報を、積極的に発信する。</li> <li>☆生涯学習施設の見直しにあたっては、市としての方針をお示しし、限られた財源の中で、どのようなまなびの場が市民や地域にとって大切なのかを意見交換しながら、施設のあり方をとともに考えていく。利用者等に対して早めに情報を発信していく。</li> </ul>	

## V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

### II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

—

### III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

—

### IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

- 公共施設の長年の利用者には、既得権と感じている方も多い。そういった市民感情を汲み取りながら、これから進めることについてはより慎重な対応が必要となってくる。
- 今後作成される市誌、加えて現在の市誌を電子化することで、市誌が市民にも親しみやすいものになると思う。

### その他、目標の達成に向けて

- 生涯学習の体系、及び施設は公民館だけではないということを、市民の皆さんに理解していただく必要がある。
- 財政の縮小、高齢化の進展などにより、現在の公共施設を維持していく力はいずれ落ちていく。そういった現状を共有することが大切である。
- 既存施設の転用（Conversion）を検討してはどうか。実際には空いているのに使っていないというケースが大都市ではよくある。その施設をフルに使うというこの思想は、非常に大切であると言われている。また、行政の部局間でお互いに協力・融通し合うこと（Crossover）、1つの施策だけのために施設を使うのではなく、複合的な施策効果を目指して使うこと（Complex）、市民と一緒に考え、プロセスを共有すること（Co-Production）、これら4つの“C”で、難局を解決できると思われる。